

悩まなくてもだいじょうぶ



知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会
代表 園部まり子

イラスト／清水直子



第14回

情報の中で揺れる患者、専門職

講演会アンケートに たくさん悩みの声

本誌9月号でもお知らせした「母の会」の講演会が9月12日に行なわれました。講演と質疑を中心に3時間半、遠方からの参加者も多く、多くの方に「とても役に立つ内容だった」と喜んでいただいたようです。私たちがたくさん得るものがありました。中でも皆さんに書いていただいたアンケートからは、あふれだいたアンケートからは、あふれる情報の中で悩んでいる姿が伝わってきました。「地域で日々、ママたちの育児相談を受けている。アレルギーに関する相談も多いが、自分の勉強がかなり不足していることに気がかされた」（助産師）、「認可保育園で栄養士をしていてもアレルギーの

最新情報を聞く機会はほとんどない。定期的「このような機会をもっともらうと嬉しい」（栄養士）、「息子の卵アレルギーに、うわさだけで将来は大丈夫だろうかと心配していた。専門医の話聞き大変に勉強になった」（患者・家族）、「インターネット情報に右往左往している。専門医の話聞き、情報は厳しく選択する必要があることがよくわかった」（患者・家族）など、適切な医療についての情報をどう得るか、患者や家族だけでなく専門職の方々も困っている様子が伝わってきました。

「母の会」も分かりやすい 情報の発信をお手伝い

そこで「羅針盤」となるのは、科学的な根拠に基づく標準治療を示し

た「治療・管理ガイドライン」です。「母の会」も最近、「ガイドライン」に基づく情報を患者にわかりやすく発信するお手伝いをする機会が増えました。

その中から今回は2つ紹介します。イラストを中心にやさしい言葉で書かれた本『正しく知ろう 子どものアトピー性皮膚炎』（東京都立小児総合医療センターアレルギー科医長の赤澤晃先生著、朝日出版社刊）と、九州大学医学部皮膚科学教室の古江増隆教授（日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎診療ガイドライン作成委員長）らで作ったホームページ「アトピー性皮膚炎の標準治療 ていねいなスキンケアと正しい薬物療法できれいな肌を取り戻そう」、どちらも標準治療を紹介しています。



そのべ・まりこ ● 神奈川県社会福祉協議会セルフヘルプ支援事業運営委員。困っている患者と専門医との橋渡しを第一に「治療ガイドライン」情報などの提供、専門医による講演会や会報発行、行政への働きかけを行なっている。共著に『食物アレルギーの手びき 改訂第2版』（南江堂刊）。

*http://www.kyudai-derm.org/atopy_care/index.html